





Introduction

あのスキャンダラスな純愛映画が遂に映画化！
あなたの知らなかった、狂おしくも切ない愛の結末が、今明かされる——

2010年10月よりNHK総合（ドラマ10）にて放送された、大石静脚本によるドラマ「セカンドバージン」。

若くして離婚して以来、仕事一筋に生きてきた45歳の女性と、妻のいる17歳年下の男性。年齢を越え、困難な状況を越えて求めあい、命さえもかける主人公たちのスキャンダラスな純愛を描いた物語は大人の女性たちから大きな共感を得ました。

放送を重ねるごとに視聴率は上昇、最終話（第10話）では、同枠最高の視聴率をあげ社会現象を巻き起こしました。この話題作が、鈴木京香、長谷川博己、深田恭子ら主要キャストはそのままに、この秋ついにスクリーンに登場します。

出版業界では名の知れた辣腕専務、中村るい（鈴木京香）は、出張先のマレーシアで鈴木行（長谷川博己）と運命の再会をする。彼はるいよりも17歳下で既に万理江（深田恭子）という妻もいたが、かつてふたりは激しく愛し合った恋人同士だった。

日本から遠く離れた異国の地での思いがけない再会——しかし、行はるいの目の前で突然銃弾に倒れてしまう。

なぜ、行はこんなことになったのか？

なぜ、5年前、何も言わず彼女の前から突然姿を消したのか？

コーランが遠く聞こえる中、生死の境をさまよう行。触れられるほどそばにいるのに、切ないほど彼を遠く感じるるい。そしてふたりの前に思いがけない人物が現れる……。

年の離れた男性との恋に戸惑うキャリア女性・中村るいを演じるのは鈴木京香。どんな困難にも強い信念をもって生きる凛とした姿が多くの女性の支持を集めました。キャリア官僚からネット証券会社の社長へと転身し、妻のある身でないと激しい恋に落ちる鈴木行役には、ドラマ版「セカンドバージン」で大ブレイク、続くドラマ「鈴木先生」でも個性的な役柄を演じ、今最も注目を集めている若手俳優、長谷川博己。行の妻・万理江を演じるのは、深田恭子。無邪気さの中に強さを秘めた女性を演じ、新境地を開きました。監督は、ドラマでもメガホンをとり、09年度芸術選奨文部大臣新人賞を受賞した黒崎博。

映画ではドラマで描ききれなかった登場人物たちの心の襞、そして衝撃の真実を、灼熱のマレーシアと東京を舞台に、より大胆に、スキャンダラスに、狂おしくもせつないラブストーリーとして新たに描き出します。

そしてドラマに続き映画主題歌を手掛けるのは岸田來未。せつないバラードが、大人の純愛をさらに盛り上げます。

Story

出版業界では名の知れた辣腕専務、中村るい（鈴木京香）は、出張先のマレーシアで鈴木行（長谷川博己）と運命の再会をする。彼はるいよりも17歳下で、既に万理江（深田恭子）という妻もいたが、かつてふたりは激しく愛し合った恋人同士だった。

日本から遠く離れた異国の地での思いがけない再会——しかし、行は彼女の目の前で突然銃弾に倒れてしまう。

なぜ、行はこんなことになったのか？

なぜ、5年前、何も言わず彼女の前から突然姿を消したのか？

るいの脳裏に、行との思い出が蘇ってくる……。

金融庁のキャリアを捨て、ネット証券会社「モンディアーレ証券」を立ち上げた野心溢れる行に興味をもったるいは、彼の著書を出版し、大ヒットさせて時代の寵児にした。

行はるいより17歳も年下で、しかも万理江という妻もいたが、やがてふたりはお互いを激しく求めあうようになる。

「17歳年下のあなたを愛してから、誇りも自信も一緒に崩れ去ったわ。

年を重ねることなんか、ぜんぜん怖くなかったのに……自分の年齢が辛くなった——」

若くして離婚して以来、男を愛さず、仕事一筋に生きてきたるいだったが、一途に、情熱的に愛を語る行に強く惹かれていく自分を押さえることは出来なかった。

ふたりの愛に立ちふさがったのは、思いがけない事件だった。（るいと行の関係に気付いた万理江の告発により）「モンディアーレ証券」が金融商品取引法違反で摘発され、行が逮捕されてしまったのだ。

仮釈放されたものの、全てを失い、抜け殻のようになってしまった生活をおくる行。るいはそんな彼をありのまま受け止めようとするが、行にとっては、るいの力強い愛情が重荷になっていく……。それ違うふたりの想い——抱き合えば、誰よりも深く理解し合えたのに——そして突然、行はるいの前から姿を消した。

突然の別れから5年——日本から遠く離れたマレーシアの密林に閉まれた病院で、
コーランが遠く聞こえる中、生死の境をさまよう行。

触れられるほどそばにいるのに、切ないほど彼を遠く感じるるい。

「どんな行さんも好き……今も昔も……あなたは私の命よ」

そしてふたりの前に、思いがけない人物が現れる……。



Cast Profile



鈴木京香・・・中村るい役

宮城県出身。大学在学中に、「愛と平成の色男」(89)で映画デビュー。以来『ラヂオの時間』(97)、『39 刑法三十九条』(99)、『竜馬の妻とその夫と愛人』(02)、『木曜組曲』(02)はじめ映画やドラマに数多く出演し、「血と骨」(04)で第28回日本アカデミー賞最優秀主演女優賞を受賞。美貌と演技力を兼ね備えた日本を代表する女優として活躍している。近作に『陽気なギャングが地球を回す』(06)、『アルゼンチンババア』(07)、『次郎長三国志』(08)、『サイドウェイズ』(09)、『重力ビエロ』(09)、『僕とママの黄色い自転車』(09)、『沈まぬ太陽』(09)、『FLOWERS』(10)などがある。

長谷川博己・・・鈴木 行(こう)役

77年東京都出身。2002年、舞台「BENT」に抜擢され、その後「カリギュラ」「ヘンリーウェルズ」など多くの蜷川幸雄演出作品に出演する。08年「四つの嘘」(EX)で初のドラマ出演。09年「BOSS」(CX)、「ギネ・産婦人科の女たち」(NTV)、「鈴木先生」(TX)では、ドラマ初主演を果たした。また待機作として「松本清張～砂の器～」(EX)がある。趣味は70年代の映画鑑賞。映画「セカンドバージン」が、映画初出演となる。



深田恭子・・・鈴木万理江(まりえ)役

82年東京都出身。96年第21回ホリプロタレントスカウトキャラバンでグランプリを受賞しデビュー。2000年「死者の学園祭」で映画初主演を務め、日刊スポーツ映画大賞、日本映画アカデミー賞で新人賞を受賞。04年に映画「下妻物語」に主演し、毎日映画コンクール主演女優賞を最年少で受賞する他、日本アカデミー賞優秀主演女優賞、横浜映画祭主演女優賞を受賞。近年では、映画「ヤッターマン」(09)、「恋愛戯曲～私と恋に落ちてください。～」(10)に出演。11年は映画「こちら葛飾区亀有公園前派出所 THE MOVIE」、「夜明けの街で」、「ワイルド7」と映画出演作が続く。



Staff Profile



監督：黒崎 博

69年岡山県出身。92年NHKに入局。連続テレビ小説「わかな」(04)、文化庁芸術祭・優秀賞を受賞した「帽子」(08)などを演出。09年に演出した「火の鳥」は、文化芸術祭・大賞、放送文化基金賞・優秀賞、モンテカルロテレビ祭ゴールドニア賞・イタリア賞・単発ドラマ部門最優秀賞など数多くの賞を受賞し、国内外で高く評価され、09年度芸術選奨文部大臣新人賞を受賞した。本年度は、初の映画監督作品「冬の日」(11)が公開され、本作が初の長編映画作品となる。

脚本：大石 静

東京都出身。86年に「水曜日の恋人たち」で脚本家としてデビューして以来、オリジナル作品を中心に多数のテレビドラマの脚本を執筆。96年NHK朝の連続TV小説「ふたりっ子」では第15回向田邦子賞と第5回橋田賞をダブル受賞、2007年WOWOW「恋せども、愛せども」では芸術祭優秀賞を受賞。その他の代表作として「功名が辻」(NHK)、「ギネ 産婦人科の女たち」(NTV)、「長男の嫁」(TBS)、「アフリカの夜」(CX)、「四つの嘘」(EX)など。

撮影：笠松則通

57年愛知県出身。石井聰監督の「狂い咲きサンダーロード」(80)でデビュー。阪本順治監督作品に多数参加、「どついたるねん」(89)「顔」(00)「間の子供たち」(08)などがある。その他の作品として「青い春」(01)、「赤目四十八滝心中未遂」(03)、「いつか読書する日」(04)、「東京タワー、オカンとボクと、時々、オトン」(07)、「悪入」(10)など。黒崎監督とは「冬の日」(11)に続いて2本目の仕事となる。

照明：渡邊孝一

56年福島県出身。数多くのテレビドラマに助手として参加。85年にCMで照明技師として独立。おもな映画作品として、「どついたるねん」(89)、「バタアシ金魚」(90)、「いつかギラギラする日」(92)など。「ピンポン」(02)と「阿修羅のごとく」(03)では日本アカデミー賞優秀照明賞を受賞。近作は、「DEATH NOTE」「間宮兄弟」(06)、「カムイ外伝」(09)、「おとうと」(10)など。

録音：弦巻 裕

50年新潟県出身。主な作品に「釣りバカ日誌 13 ハマちゃん危機一髪!」(02)、「歩いても歩いても」(08)、「西の魔女が死んだ」「蛇にピアス」(08)、「空気人形」(09)、「オカンの嫁入り」(10)、「奇跡」(11)など。黒崎監督の「冬の日」(11)にも参加している。

美術：小川富美夫

48年宮城県出身。主な作品に「ラヂオの時間」(97)、「椿三十郎」(07)など。「風花」(00)で毎日映画美術賞受賞、「ヤマトタケル」(94)、「天守物語」(95)、「ホワイトアウト」(00)、「おくりびと」(08)、「沈まぬ太陽」(09)では日本アカデミー賞優秀美術賞を受賞している。歌舞伎座などで舞台美術も手がけている。

編集：森下博昭

75年群馬県出身。97年「瀬戸内ムーンライト・セレナーデ」に編集助手として参加。主な作品に「鏡の女たち」(03)、「ベロニカは死ぬことにした」(06)、「さくらん」「オリオン座からの招待状」(07)、「食堂かたつむり」「ちゃんとまげぶりん」(10)など。

